

# ルーブリック作成ガイド

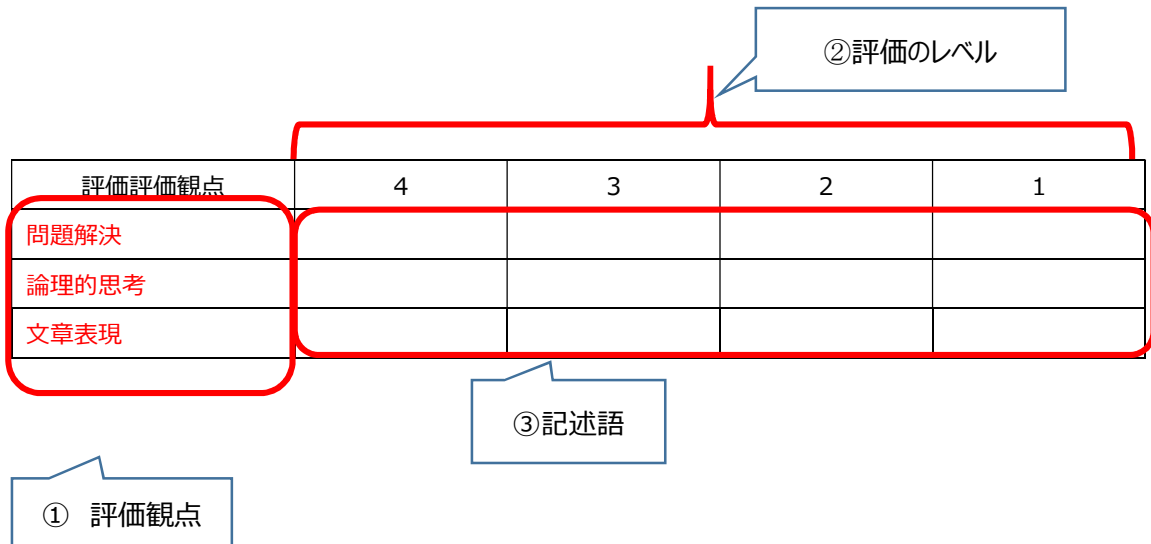
## 1 ルーブリックとは

### 1. 1 ルーブリックとは

ルーブリックとは、「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、学生が何を学習するのかを示す評価規準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標である。」と説明されています（中教審大学教育部会（2011年12月9日）説明資料）。

### 1. 2 ルーブリックの構成要素

ルーブリックは、①評価観点、②レベル、③記述語から構成されます。



① 評価観点	活用場面によって記載する内容が異なります。プログラムレベルや授業レベルで活用する場合は、学生に身につけさせたい（測定したい）能力・知識などが記載される例が多いです。レポートなどの評価に使用する場合は、「構成」、「論理性」などの評価の対象となる要素を記載します。
② 評価のレベル	3～5段階で設定します。段階が増えるほど作成が難しくなります。
③ 記述語	レベルごとに求められる行動、もしくはレベルごとの到達度を具体的に記載します。

### 1. 3 ルーブリックの種類と活用できる場面

ルーブリックにはいくつかの種類があります。一つ目は、「課題ルーブリック」と呼ばれるものです。例えば、授業内で課題として提示したレポートや授業の中で実施するプレゼンテーションなどを評価する際に使用します。二つ目は、「科目ルーブリック」と呼ばれるものです。各科目の到達目標を評価観点に、評価レベルを A<sup>+</sup>、A、B、C、D の5段階に設定することで、最終的な成績評価の根拠として用いることなどが可能です。学期末に最終レポートなどを対象に各科目の目標に到達しているかどうかを総括的に評価することが想定されます。三つ目は、「カリキュラム・ルーブリック」と呼ばれるもので、「評価観点」に、各学部のディプロマ・ポリシーに定める学修成果を記載し、卒業論文やキャップストーンとして位置づけられるような科目において、学生が学修成果を獲得しているかどうかを把握することなどが考えられます。

### 1.4 ルーブリックの利点と課題

ルーブリックの利点について濱名（2012）では、以下の5点があげられています。

- ①到達目標と評価の評価観点・基準を可視化することにより、評価者の主観的ばらつきを縮小し、評価の標準化ができる
- ②学習者があらかじめ到達目標や評価の評価観点・基準を意識して学修に取り組むことができる
- ③形成的評価と総括的評価に一貫して利用可能であり、学習者へのフィードバックが定性的なコメントのみに比べ容易である（テスト等の定量的評価よりは手間はかかるが）
- ④単独科目の評価にとどまらず、構造的・体系的な評価に活用していくことができる
- ⑤プログラム評価と学生の達成度評価の両方の用途で利用可能である

一方で以下のような課題もあげられています。

- ①テスト等の通常の定量的評価に比べると手間がかかる
- ②ルーブリックを作成するだけでは評価者間の誤差が完全には無くならず、継続的にワークショップなどで評価者間の誤差を調整し続けることが必要
- ③共通ルーブリックの作成は基準間のレベル設定などが難しく、誰もが作成できる訳ではない（PDCA サイクルによる精選化も必要）
- ④アセスメントプランの中で、多元的なアセスメントの1方法として組み込んでいく

## 2 ルーブリックの作成方法

### 2.1 評価観点・レベルの設定

「評価観点」には、学生に身につけさせたい能力や測定したい知識要素を記載します。課題ルーブリックであれば、提示したレポート等において達成が期待される要素（構成、論理性など）を記載します。科目ルーブリックであれば、授業の到達目標、カリキュラム・ルーブリックであれば、各学部・研究科のディプロマ・ポリシーに定める学修成果を記載します。なお、課題ルーブリックで定める「評価観点」は、授業の到達目標との関連性があること、科目ルーブリックで定める「評価観点」は、ディプロマ・ポリシーに定める学修成果と関連性があることが望ましいです。

「レベル」については、3～5段階で設定することが一般的ですが、科目ルーブリックで成績評価の根拠としても活用することが想定される場合は5段階に設定することとなります。このような条件がない場合は、段階が増えれば増えるほど作成が困難になるので、最初は3段階で作成することを推奨します。

最後に、ルーブリックによる評価の結果を学生にフィードバックすることを想定している場合の留意点について記載します。例えば、数字やABCなどを使用することも想定されますが、標語を使用する場合、一番下位のレベルにおいて、「不可」や「不合格」などを使用するのではなく、「要再学習」など、前向きな表現を使用するようにしてください。

### 2.2 記述語の記入

記述語を記入していくにあたっては、いくつかの手順が考えられますが、例えば3段階の場合は、以下のような手順をお勧めします。

①評価観点に記載されている項目に対して最も高い水準の具体的な行動・成果を記載する。

例えば、問題解決力では、「課題の解決方法を提案できる」ことが求められており、最も高い水準として「問題の理解を示す単独または複数の解決策・仮説を提案する。解決策・仮説は状況的要因に配慮し、また、問題の倫理的、論理的、文化的要因の全ての要因にも配慮する。」<sup>1</sup>などが想定されます。

評価観点	模範的	標準的	要改善
問題解決力	問題の理解を示す単独または複数の解決策・仮説を提案する。解決策・仮説は状況的要因に配慮し、また、問題の倫理的、論理的、文化的要因の全ての要因にも配慮する。		

<sup>1</sup> Association of American Colleges and Universities 「VALUE Rubrics」参照。

<https://www.aacu.org/value-rubrics> (2021年6月22日最終アクセス)

②評価観点に記載されている項目に対して最も低い水準の行動・成果を記載する。

最も高い水準に記載した内容をすべて否定する内容を記載することになるのですが、ルーブリックが学生へのフィードバックのためのツールになりうることを想定した表現にすることも必要です。VALUE ルーブリックでは、「単独の解決策・仮説を提案するが、曖昧であるか、問題提示に間接的にしか対処しないため評価が難しい。」という記載になっています。

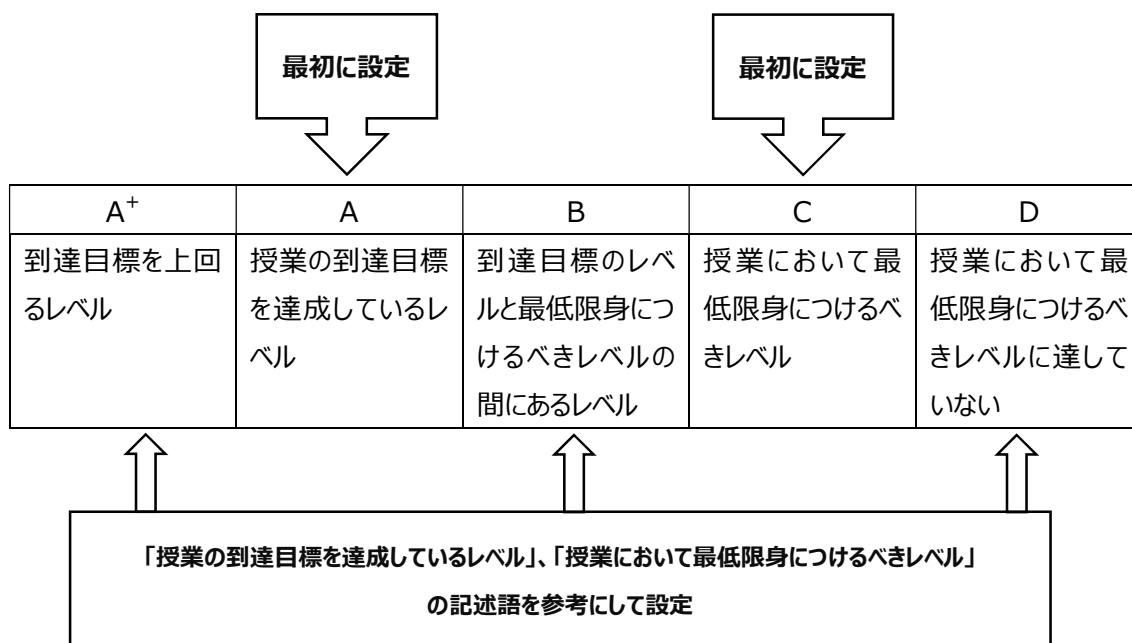
評価観点	模範的	標準的	要改善
問題解決力	問題の理解を示す単独または複数の解決策・仮説を提案する。解決策・仮説は状況的要因に配慮し、また、問題の倫理的、論理的、文化的要因の全ての要因にも配慮する。		単独の解決策・仮説を提案するが、曖昧であるか、問題提示に間接的にしか対処しないため評価が難しい。

③中間水準の行動・成果を記載する。

「最も高い水準」の記述語の部分否定を記載するイメージで、中間水準の行動・成果を記載します。例えば、「複数の解決策を提案しているが、一つの要因にしか配慮していない」、「複数の要因に配慮しているが、単独の解決策の提案にとどまる」などの記載が考えられます。水準を満たしている部分と満たしていない部分を明確に記載することが必要です。

評価観点	模範的	標準的	要改善
問題解決力	問題の理解を示す単独または複数の解決策・仮説を提案する。解決策・仮説は状況的要因に配慮し、また、問題の倫理的、論理的、文化的要因の全ての要因にも配慮する。	複数の解決策を提案しているが、一つの要因にしか配慮していない  もしくは、  複数の要因に配慮しているが、単独の解決策の提案にとどまる	単独の解決策・仮説を提案するが、曖昧であるか、問題提示に間接的にしか対処しないため評価が難しい。

上記は、3段階のレベルを設定した場合の手順ですが、4段階以上のレベルを設定した場合は、別の手順が必要となります。例えば、成績評価の根拠として活用することを想定して5段階で設定した場合は、「授業の到達目標を達成しているレベル」と「授業において最低限身につけるべきレベル」を設定してから、その中間レベル、到達目標を上回るレベル、最低限身につけるべきレベルを下回るレベルを設定するなどの方法も考えられます。



特に中間段階に位置するレベルの記述語をどのように差別化するかについては難しい面があります。松下他（2013）では、VALUE ルーブリックを分析し、レベル設定の方法が以下の類型に基づいて行われていることを明らかにしていますので、参考にしてください。

条件型	条件をだんだん増やしていく
数量詞型	数量を示す単語や句を使って、数量をだんだん増やしていく
動詞型	動詞を使って、望みさの程度をだんだん高めていく
形容詞・副詞型	形容詞や副詞を使って、望みさの程度をだんだん高めていく

出典：松下他（2013）

### 2. 3 記述語の記入にあたっての注意点

上記で引用している VALUE ルーブリックの記述語は、英語で記載されているものを訳したものであることから、必ずしも以下に記載する留意点に沿っておりませんが、新たに記述語を作成する場合は、以下の点を踏まえることをお勧めします。

- ①獲得能力を評価観点とする場合は、主語を学生とし、「～できる。」という表現にするようにする。達成を期待する要素を評価観点とする場合は、何を測定したいのかを意識して数値や形容詞を用いて記載する。
- ②評価をしやすくするため、学生が学習の目安として活用できるようにするため、可能な限り、一つの文章に一つの資質を記載するようにする。また、なるべく平易な表現とするようにする。
- ③観察可能な動詞で記入する。

### 3. 参考情報

ルーブリックを作成する場合には、作成例が役に立つことがあります。以下の例も参考にしてみてください。

①日本高等教育開発協会「ルーブリックバンク」

<https://www.jaedweb.org/blank-3>

②Rubric Bank（日本語）

<https://mmt4.cs.tohoku-gakuin.ac.jp/>

③ハワイ大学マノア校 Assessment and Curriculum Support Center

Rubric Bank（英語）

<https://manoa.hawaii.edu/assessment/resources/rubric-bank/>

④全米カレッジ・大学協会「VALUE ルーブリック」

<https://waseda.box.com/s/m8dmss2eju9kqji9vsj4jq8p0r3pqno3>

### 参考文献

濱名 篤, 2012, 「ルーブリックを活用したアセスメント」, 中央教育審議会高等学校教育部会発表資料

松下佳代, 2012, 「パフォーマンス評価による学習の質の評価 : 学習評価の構図の分析にもとづいて」『京都大学高等教育研究』18: 75-114.

松下佳代他, 2013, 「VALUE ルーブリックの意義と課題-規準とレベルの分析を通して-」『第19回大学教育研究フォーラム発表論文集』: 46-47.